

名戸ヶ谷ビオトープだより

第18号

2006年4月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

鶯がさえずり、モンシロチョウが舞う中で

水田稲作部会

うぐいすが鳴き、モンシロチョウが舞う中で、3月18日に今年の稲作りの作業が始まりました。水田部会の会員は少ないのですが、この日は篠崎会長、増田夫妻、私(小笠原)、に不耕起部会の窪田さん、森田さんの応援も得て、田起こし、畦直しをしました。田圃のおたまじゃくしにも引越しをしてもらいました。この日の作業の残り部分を3月25日(土)に増田夫妻とご一緒に終え、これで今年の田起こしを全て無事完了しました。なお、畦がだいぶ傷んでいるので、引き続き補修していきます。

またBゾーンの木道工事も始まりますので、みなさんのご協力をよろしくお願い致します。(小笠原 智)



不耕起稲作部会

4年目を迎えて不安なスタート



不耕起栽培による米作り4年目の作業がスタートしました。残念な作業開始となりました。地権者のご意向で返還することになった土地の面積が不耕起栽培に一番関係の深い場所でした。

- 1-1 番水田部分は返還すべき部分に入っているため、注水管の変更作業を行いました。
- ・ 一番水田から3番水田に水が流れるように注水管の変更作業を行いました。

- 畦の補修
 - ・ 2番水田北側の畦が崩れた箇所の補修を行いました。
 - ・ 3番水田南側の畦を補修しました。
- 今後の予定
 - ・ 田植え前の5月上旬までは畦の補修・補強が主な作業となります。
 - ・ 苗の引き取り: 佐原市の藤崎農園から5月8日頃の予定。
 - ・ 田植え: 5月14日、15日頃の予定。(才川 寿麿)



2月18日にビオトープのBゾーンの木道脇の池などにニホンアカガエルの卵塊が多数見られました。2月13日にはまだ見られなかったもので、その間の5日間に産んだものと思われます。2週間後にはオタマジャクシになって、現在ではたくさん泳いでいる様子が観察できます。

そして、3月26日にヘイケボタルの幼虫30匹をホタルエリアに放流しました。これから5月にかけて、水路や池の土手の地中で蛹となり、夏に羽化します。どのくらいの割合で羽化するか見守っていききたいと思います。

また、5月の連休明けあたりに、恒例の生きもの観察会と、観察会とは別にビオトープの生態系調査を実施したいと思います。詳細が確定しましたら、改めてご連絡いたします。みなさまのご協力をお願いいたします。
(松清 智洋)



第二期木道工事始まる

2期の木道工事に4月1日から着手しました。昨年7月にBゾーンの南側に9mの木道第一期工事を完成し、多くの方に喜ばれました。今年は第2期工事として16mの木道作りがスタートしました。工事施工総合監督の山谷さん以下、小笠原さん、窪田さんの指導の下、8名の会員が参加。スコップで土を掘ったり、物置小屋からリヤカーで作業現場まで資材を運搬したりしました。

この日は正午で作業を打ち切り、残りを翌日午前9時から再開することにしました。近日、すばらしい木道が完成することでしょう。(才川 寿麿・広報編集部)



湧水前の木道改修が完了しました

3月18日のビオトープ合同作業日。ベンチの移設や榛の木の移植と一緒に市の委託業者によって数日前から始まっていた名戸ヶ谷湧水前の木道改修工事が完了し、見違えるように綺麗になりました。小さなお子さん連れのお母さん方や散歩でビオトープを訪れる年配の方々が嬉しそうに木の香りも新しい木道を踏みしめています。腐って穴が開いている他の木道の補修も早くおねがいします、との希望も述べていました。小さな子どもが朽ちた木道の穴で怪我をすることを一番心配しておりました。

(広報編集部)



ビオトープの土地一部返還について

地権者のご好意によりビオトープとして使用しておりました土地の一部を地権者のご意向により返還することになりました。ビオトープとして会員の皆さんと共に3年間、豊かな生態系を目指して育成してきたところで、大変残念です。この度返還する面積はビオトープ全体の約10%です。

住宅地に囲まれた湧水の豊かなこのビオトープを、今後とも会員の皆さんと共に生きものたちの生活の場として保全し、市民の憩いの場としても活用できるよう育成していきたいと考えています。

(篠崎 将)

合同作業の報告

2月18日(土)は暖かな朝。合同作業に参加した大勢の会員に残念な知らせが待っていた。土地の所有者より「土地の返還請求」があり、当該区域の工作物の撤去および後片付けの義務行為が発生した、とのこと。従って、この日の作業はビオトープ掲示板・表示板の移し替え、伐採樹木の片付け、お立ち台の基礎杭補強などが主なものとなった。

掲示板・表示板は2月15日に市の委託業者により引き抜きが行われ、移動先へ速やかに移設されていた。



樹木の片付けは市のクリーンセンターから提供された30袋ほどの紙袋に詰め込み、まとめた廃木類と一緒に2月20日(月曜日)の市の清掃事務所による運搬に備えて一箇所にまとめました。

基礎杭補強は一級建築士の最強コンビ、山谷・小笠原さんの手により手早く完了し、この日の作業全体も参加者19名のパワーで2時間ほどの作業で完了しました。みなさんお疲れさまでした。

尚、榛の木の移植・ベンチの移設は先の2月15日(水)に篠崎会長・市の環境保全課立会いの下で、委託業者の手によって行われました。

(窪田 孝志)



ビオトープの生きもの



タイリクバラタナゴ コイ科

全長 8cm 前後で、ニッポンバラタナゴと似ているが、腹びれの前側が白く縁取られていることで区別できる。中国原産のハクレンやソウギョに混じって輸入、放流され、または観賞用のものが放流されて繁殖し、日本全土に分散しつつある。藻類を主食とする雑食で、関東関西を中心に全国に広がりつつある。3 月に工事を行った B ゾーン湧水前のデッキの下にも住み着いていた。



ドジョウ ドジョウ科

体長は 12～18cm、色は黒褐色か緑褐色で、不規則な暗色班があり、腹側は淡色、口ひげは 5 対、雄は雌より各ヒレが大きく、特に胸ビレが太く長い。湖沼、河川、水田と浅い泥底に生息している。泥土中の有機物や小動物を食べる雑食性。日本全土で見ることが出来、古来から食用とされてきた。A ゾーンの水田と B ゾーンの三角池で見ることができる。

(篠崎 将)

名戸ヶ谷ビオトープの管理運営業務を市が委託

今年 2006 年度 4 月より、名戸ヶ谷湧水ビオトープと隣地境部分の草刈、ビオトープ内およびその周辺道路の清掃やビオトープ内の立ち木の剪定などの環境整備業務が市から「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」に委託されることになりました。

この他にも、委託内容は、(1)ビオトープ内の木道等の簡易的な修繕、(2)年に 2 回(春、秋)行い、報告書にまとめるビオトープ内の生態系調査、(3)広く一般市民を対象として年一回以上企画するビオトープの植物・生きもの観察会、(4)古来からの農村文化を継承する水田生態系を復元するため、地域・近隣の学校等を含めた市民参加による水田耕作(水田稲作栽培および不耕起稲作栽培)を実施する、が含まれます。名戸ヶ谷ビオトープ 2006 年度運営委託費内訳の細目がすでに明らかにされております。(広報編集部)

柏市長宛 「名戸ヶ谷ビオトープの用地確保の要請」提出

地権者からの今回の土地の一部返還要請の事態を受けて、名戸ヶ谷ビオトープの将来に対する土地の使用賃借契約から生ずる不安を払拭するため、残された賃借契約の土地を市として取得してくれるよう、名戸ヶ谷ビオトープを育てる会会員の総意として柏市長宛に篠崎会長名で要請書を提出しました。(広報編集部)

編集後記

春風に舞う桜の花びらの季節がめぐってきました。ビオトープのあちこちでは卵から孵化したオタマジャクシの元気に泳ぎまわる姿が見られます。田起し、畦直しに続いて第 2 期木道工事も始まりました。5 月には代掻き、田植え、生態系調査、生きもの観察会等、目白押しです。縮小を余儀なくされた不耕起の水田の境界線など、先送りの課題も残っています。尚、メールのない方のため、小笠原幹事が「ビオトープだより」を印刷して物置小屋のボックスに用意してくれました。広報編集部 (春山)